

## 据付工事説明書

パッケージエアコン <オフィス・店舗用エアコン>

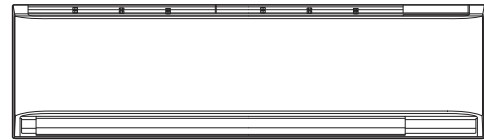
### 壁掛形

(CS-K5シリーズ)

冷媒R32使用

#### 室内ユニット品番

CS-SP40K5	CS-SP63K5
CS-SP45K5	CS-SP71K5
CS-SP50K5	CS-SP80K5
CS-SP56K5	CS-SP112K5



壁掛形

据付工事説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。  
特に「安全上のご注意」（1～2ページ）は、施工前に必ずお読みください。

据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに「取扱説明書」にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。また、「据付工事説明書」は、「取扱説明書」や「保証書」、「据付工事説明書 電気工事編」と共に、お客様で保管いただくように依頼してください。

## 安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



### 警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



### 注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容（禁止事項）です。



実行しなければならない内容（強制事項）です。



### 警告



■ 室外ユニットは、ベランダの手すり近くに設置しない（お子様が上に登り、手すりを越えるなどして落下のおそれ）

■ エアコンの設置や移設時、冷凍サイクル（配管）内に、指定冷媒（R32）以外の空気、水などを混入させない（空気、水などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因）

■ 電源配線をバンドなどで束ねて収納しない（発熱、火災の原因）

■ 配線は途中接続しない（接触不良や絶縁不良、許容電流オーバーなどにより、感電や火災の原因）

■ 指定の冷媒（R32）以外は、絶対に使用しない（故障や破裂、爆発、発熱、火災などの原因）



■ 据付工事は、お買い上げの販売店や専門業者に依頼し、工事には必ず指定の部品を使って確実にを行う（ユニットの落下や水漏れ、感電や火災の原因）

■ フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締める（締めすぎると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因）

■ 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する（故障や発熱、火災の原因）

■ 漏電しゃ断器（全極開閉機能付）を取り付ける（故障や、漏電時に感電、火災の原因）

# 安全上のご注意 (つづき)

## 警告



■ 付属品および別売品は当社指定の部品を使用する  
(指定の部品を使用しないと、ユニットの落下、  
水漏れ、感電、火災等の原因)

■ 据付作業中に冷媒が漏れたときは換気する  
据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないこと  
を確認する  
(冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、  
コンロなどの火気に触れると有毒ガスの発生や火災の原因)

■ 配管やフレアーナット、工具は冷媒R32、R410A  
専用のもを使用する (R22、R407C用では、機器の  
故障のほか、冷凍サイクルの破裂など重大事故の原因)  
※使用しているHFC系冷媒 (R32) は、従来の  
冷媒 (R22) に比べ圧力が約1.6倍高くなります。

■ 電気工事 (アース工事を含む) は、電気工事士の  
資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、  
「内線規程」およびこの「据付工事説明書」に従って  
施工する (感電、火災のおそれ)

■ 電源は、必ず専用回路を使用する (感電、火災のおそれ)

■ 台風などの強風・地震などに備え所定の工事を行う  
(転倒などにより、けがの原因)

■ 据え付けは、重量に十分耐えられる所に確実に  
(ユニットの落下による、けがの原因)

■ 据付作業では圧縮機を運転する前に、確実に  
冷媒配管を取り付ける  
(空気を吸引すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、  
破裂、けがなどの原因)

■ ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に、  
接続弁を閉じ、圧縮機を停止する  
(空気を吸引すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、  
破裂、けがなどの原因)

■ 小部屋へ据え付ける場合は万一冷媒が漏れても  
限界濃度を超えない対策を行う  
(冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故や火災の原因)

■ 配線をはさまないように、カバーは元どおり確実に  
取り付ける (感電、火災の原因)



■ アース工事 (D種接地工事) を行う  
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話などのアース線に接続しない (感電の原因)  
アース線は、ベランダの手すりにとらない (感電の原因)

## 注意



■ 室外ユニットの吸込口やアルミフィンにさわらない  
(けがの原因)

■ 周囲に可燃性ガスの漏れるおそれのある場所に設置しない  
漏れた冷媒が滞留するおそれのある場所に設置しない  
(万一ガスが漏れてユニットの周囲にたまると、発火の原因)

■ 接続部などから漏れた冷媒には直接さわらない  
(凍傷の原因)



■ 冷媒配管の断熱は、この「据付工事説明書」に従って  
確実に断熱する  
(正しく断熱されていないと、水漏れややけどの原因)

■ ドレン配管は、「据付工事説明書」に従って確実に  
排水するよう配管し、結露が生じないよう保温する  
(配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因)

■ 据付工事説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で据え付けされたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その据え付けが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

### フロン排出抑制法 第一種特定製品

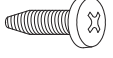
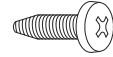
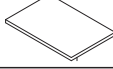
- 1) フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
- 2) この製品を廃棄・整備する場合には、フロン類の回収が必要です。
- 3) 冷媒の数量は、本ユニットが接続されている室外ユニットや  
接続室内ユニット台数、配管長等により異なります。  
システム全体での数量は、室外ユニットに記載されています。
- 4) 使用しているフロン類の地球温暖化係数は、675 です。



## 1. 付属品

壁掛形（付属品は据付工事で必要なため、工事が完了するまで捨てないでください）

### ● CS-K5シリーズ

名 称	形 状	個数	備 考
取 付 ネ ジ (4×20)		8	リアパネル取付用
取 付 ネ ジ (4×10)		2	室内ユニット取付用
断 熱 材		1	フレアナット断熱用

## 2. 別売品

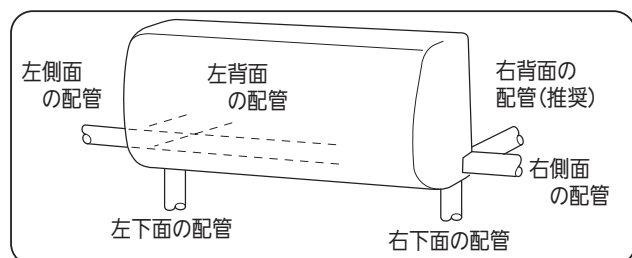
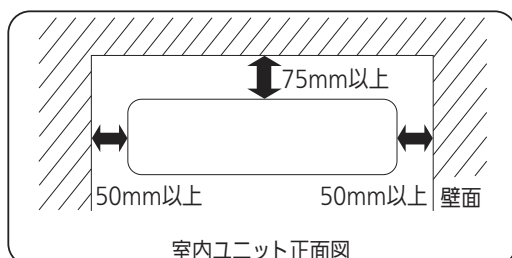
主な別売品には下記のものがあります。

取り付けについては、それぞれに付属している説明書を参照してください。

- ・ワイヤードリモコン
- ・ワイヤレスリモコン
- ・エコナビセンサー（壁設置形）

## 3. 据付場所

1. 室内ユニットの重量に十分耐える強固な壁に据え付けてください。
2. 冷媒配管、配線が終了するまでは、ユニットに電源を入れたり運転させたりしないでください。感電するおそれがあります。
3. 冷気（暖気）の循環しやすい場所に据え付けてください。  
吹出口および吸込口の周囲には、空気の流れの妨げになるような物を置かないでください。
4. 外気の入りやすい扉や窓の近くに室内ユニットを据え付けることは、できる限り避けてください。  
露が付いたり、霧吹きや露飛びが発生することがあります。
5. ドレン水の処理のしやすいところに据え付けてください。  
不備があると、水漏れし家財等を濡らす原因になることがあります。
  - ドレン配管は屋内を通る部分をできるだけ短くしてください。
  - 屋内を通る部分のドレン配管は必ず断熱してください。
  - ドレン水の処理は隣家などに迷惑のかからないようにしてください。
6. 油を多量に使用する中華料理店などの調理場や工場の機械設備の近くには、室内ユニットを据え付けしないでください。  
油が熱交換器や樹脂部品等に付着して、能力の低下、霧吹き、露飛びの発生、樹脂部品の変形や破損の原因となります。
7. 周囲に可燃性ガスの発生、滞留、漏れのおそれのあるところは、避けてください。
8. 周囲に亜硫酸ガス、腐食性ガスの発生するところは、避けてください。
9. 高周波が発生する機械のあるところは、避けてください。
10. 火災警報器と吹出口は、1.5m以上離してください。
11. 配管の取り出しは下図のように、6方向に施工することができます。
12. 据付スペースは、下図のようにしてください。



13. 床面より高さ1.8m以上の位置に据え付けてください。

### 3. 据付場所 (つづき)

#### ワイヤレスリモコン(別売品)使用時のご注意

- 電子瞬時点灯方式(ラピッドスタート方式)または、インバーター方式の蛍光灯の近くに室内ユニットを設置しますと、ワイヤレスリモコンの信号を受け付けないことがあります。  
(電子瞬時点灯方式または、インバーター方式の蛍光灯はグローランプがありません。)
- 蛍光灯による障害を防ぐため、室内ユニットと蛍光灯との距離は2m以上離してください。蛍光灯との距離を離しても障害が発生する場合は、次のどちらかの方法で処置してください。
  - ① 赤外線フィルター(サービスパーツ扱い:CV 638 015 6542)を室内ユニットの受信部に外から貼り付けてください。
  - ② ワイヤードリモコン(別売品)を取り付けてください。

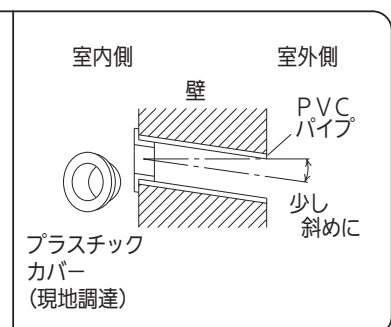
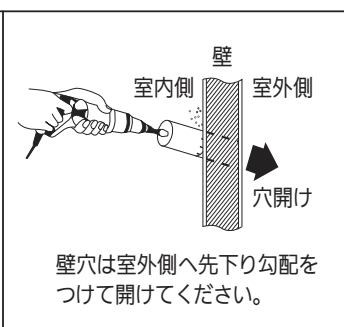
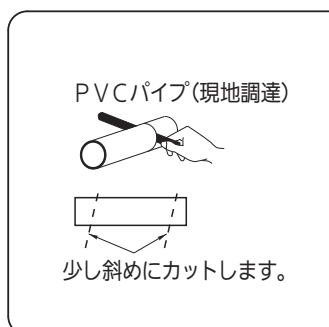
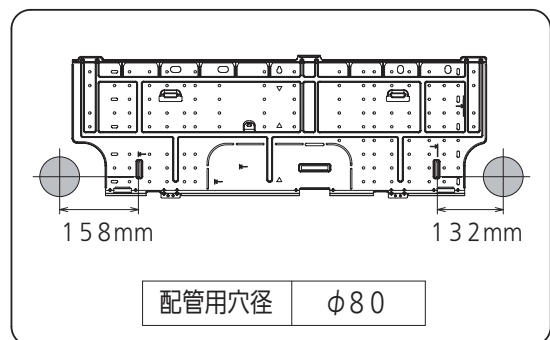
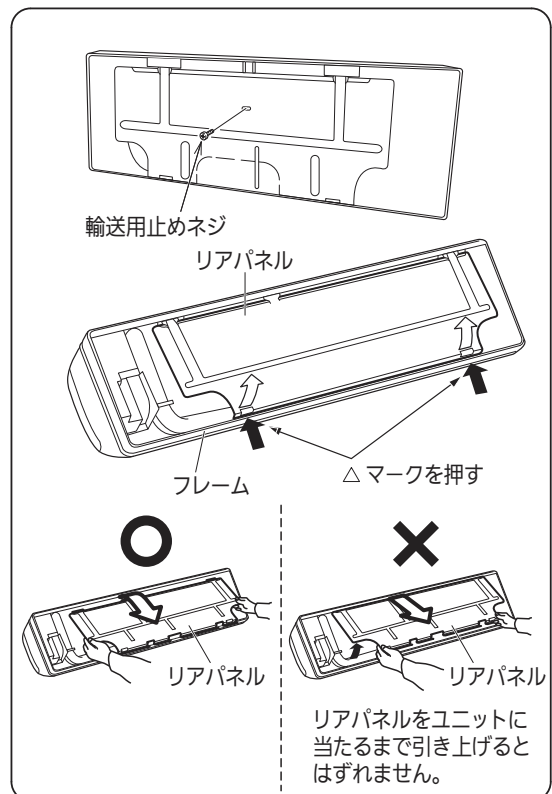
### 4. 据付手順

#### 1. リアパネルの取りはずし

- (1)室内ユニットからリアパネルを止めている輸送用止めネジをはずしてください。
- (2)右図のフレーム(矢印)部分の△マーク2か所を押し上げて、リアパネルをはずしてください。

#### 2. 壁への穴開け

- (1)リアパネルを取り付け場所に位置決めします。  
定期または建築用水準器を使用して、パネルが水平になっていることを確認します。  
穴を開けるまでは、リアパネルを壁面に設置しないでください。
- (2)穴を開ける前に、切り取り個所の真後ろに柱やパイプが通っていないことを確認します。  
(電気配線や電線ダクトのある個所も避けます。)
- (3)壁の穴径はφ80で開けてください。  
また、壁穴は室外側へ先下り勾配を付けるように開けてください。
- (4)壁穴にPVCパイプ、およびプラスチックカバーを取り付けてください。

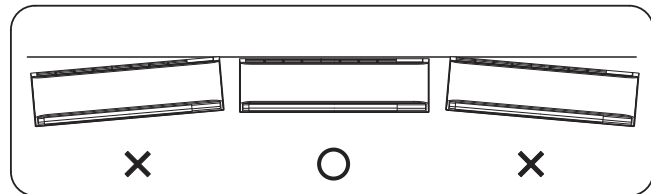


## 4. 据付手順 (つづき)

### 3. リアパネルの設置

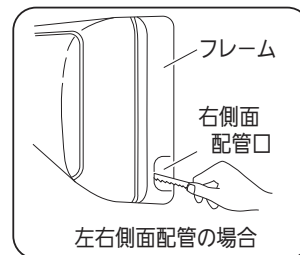
【木造壁の場合】

- (1) 付属の取付ネジ(4×20)8本を用いて、リアパネルを壁面に設置してください。リアパネルの ⇨印が推奨の取付ネジ位置です。
- (2) 定規または建築用水準器を使用して、リアパネルが水平になっていることを確認してください。この作業は、室内ユニットを適切に設置するため特に重要です。
- (3) リアパネルが壁面に密着していることを確認します。壁面と室内ユニット間に隙間があると、騒音や振動の原因になります。



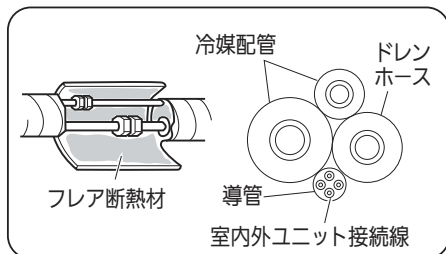
### 4. 室内側配管

- (1) 配管の方向を確認します。
  - 【左側面、左下面または右側面、右下面の配管の場合】  
左右フレームの配管口は、金のご等を用いてカットしてください。
  - 【右背面または左背面の配管の場合】  
この場合、フレームの配管口をカットする必要はありません。
- (2) 室内を通るドレン配管、および冷媒配管は必ず断熱してください。断熱しないと結露により家財等を濡らす原因となります。付属の断熱材を使用してください。



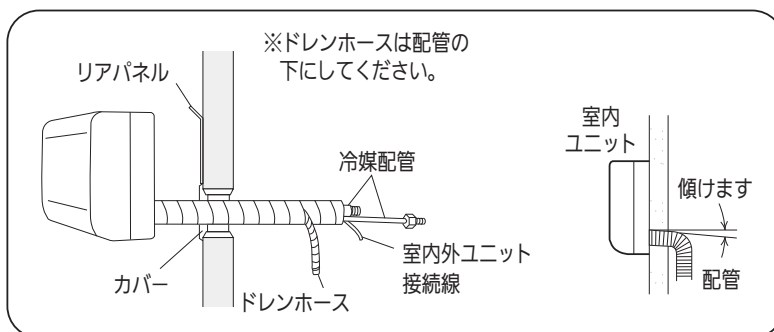
フレアナットを締め付ける場合は、必ずトルクレンチを用いダブルスパナにて行ってください。フレアナット締め付けによるフレア部の破損を防ぐため、下表を目安に締め付けてください。

パイプ径	締付トルク	銅管肉厚
φ6.35(1/4")	14~18 N・m (140~180 kgf・cm)	0.8 mm
φ9.52(3/8")	34~42 N・m (340~420 kgf・cm)	0.8 mm
φ12.7(1/2")	49~61 N・m (490~610 kgf・cm)	0.8 mm
φ15.88(5/8")	68~82 N・m (680~820 kgf・cm)	1.0 mm



【4-1 右背面、右側面、右下面の配管の場合】

- (1) 室内ユニットの取り付け
  - ① 配管をドレンホース、室内外ユニット接続線と一緒にまとめて化粧テープで巻きます。(必要以上にきつく巻かないでください。ドレンホースは配管の下にし、強い張力がかからないように余裕を持たせてください。)
  - ② ①を壁穴に通し室外へ出しながら、リアパネル上部の爪に室内ユニットを掛けます。



## 4.据付手順（つづき）

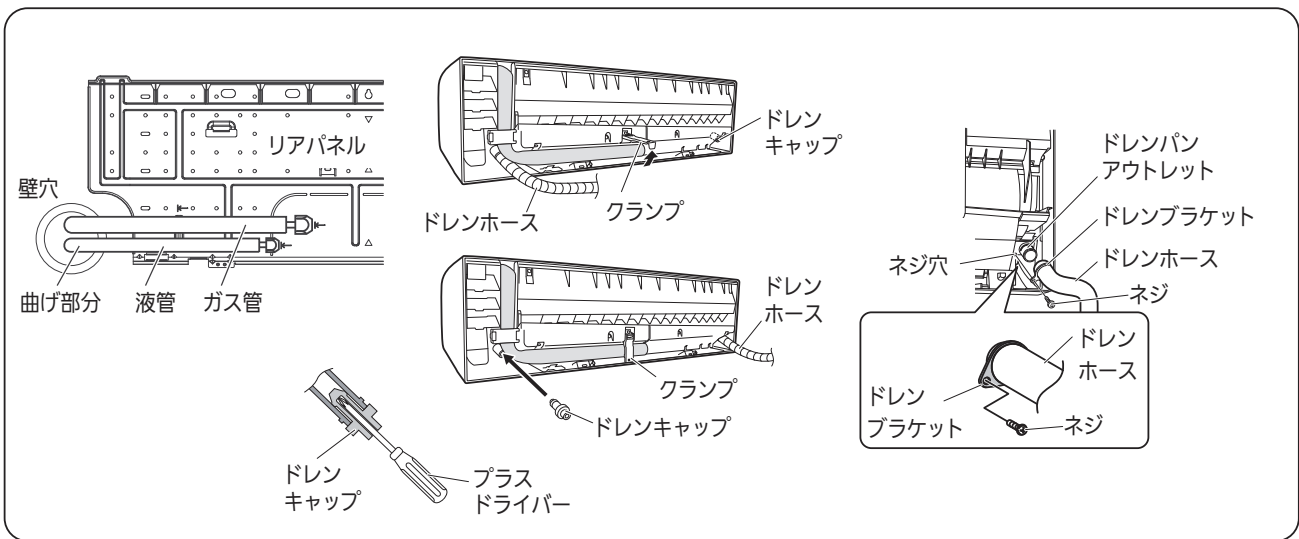
### 【 4-2 左背面、左側面、左下面の配管の場合 】

#### (1) 配管の室内引き込み

室内に引き込んだ配管類は、リアパネルに刻印してある液管・ガス管の位置をめやすに配管の長さを調節してください。

#### (2) ドレンホース・ドレンキャップの付け換え

- ドレンホースとドレンキャップの付け換えを行ってください。  
ドレンキャップをはずすときはプライヤー等でドレンキャップを挟み、引き抜いてください。ドレンキャップを差し込む場合は、プラスドライバーをドレンキャップの穴に差し込んで確実に押し込んでください。
- ドレンホースをはずすときは、ドレンブラケットのネジをはずして抜き取ります。取り付けるときは、ドレンパン出口にドレンホースを奥まで差し込み(このとき、水をつけると差し込みやすい)、ドレンブラケットがドレンパン出口横のネジ穴に当たるのを確認して、付け換え前にははずしたネジで固定してください。(取り付け後、ドレンホースが確実に取り付けられていることを確認してください。)

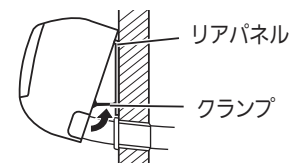


#### (3) 室内ユニットの取り付け

- ① 裏板上部の爪に室内ユニットを掛け、クランプを後方向にたおし、リアパネルに当ててください。
- ② 冷媒配管、ドレンホース、配線を接続します。(延長のため市販のドレンホースを用いて室内を通す場合は、必ず市販の断熱材を巻いてください。右背面・右側面・右下面配管の場合は、(1)の項を参照してください。)
- ③ リークテスト終了後、配線・配管をまとめて化粧テープで巻いてください。(必要以上にきつく巻かないでください。)配線と配管をフレームに収納し、クランプでフレームに固定してください。ドレンホースは配管の下になるようにしてください。

#### 【左背面・左側面・左下面配管の場合】

クランプを立ち上げてうかせると作業がしやすくなります。



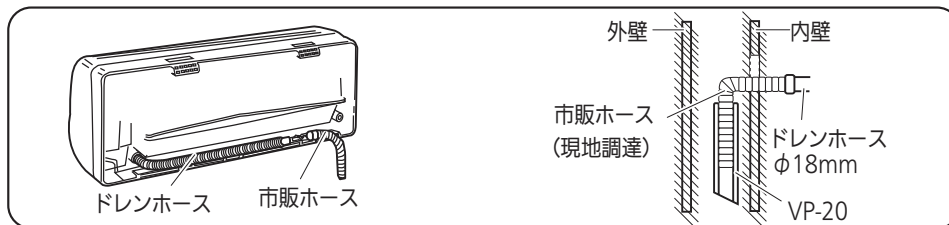
## 4. 据付手順 (つづき)

(4) ドレンホースを接続してください。

ドレンホースの根元に無理な力をかけないように、作業をしてください。

【VP管(VP-20)の場合】

- 下図のように、あらかじめ市販のホースを穴から引き出しておいてください。
- ドレンホースは、そのままではVP管(VP-20)には差し込めませんので、ドレンホースを内壁の穴から引き出してある市販ホースに接続し、テープなどでシールしてください。
- (トラップができないようにしてください。また市販ホースは断熱材を巻いてください。)

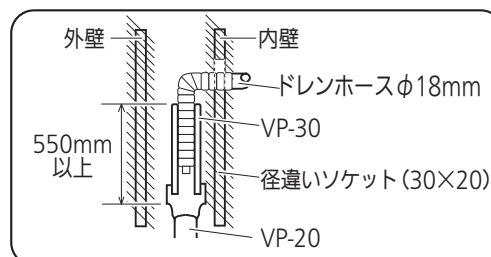


【VP管(VP-30)の場合】

- ドレンホースをVP管に差し込んでください。
- (トラップができないようにしてください。)

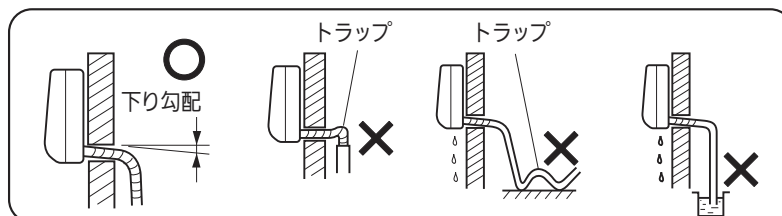
【ジャバラホース接続の場合】

- 市販のドレンホースを現地調達しドレン口に接続してください。



(5) 室内に長い横引きがあるときは、ドレンホースに水がたまらないようにドレン配管を下り勾配とし、断熱してください。

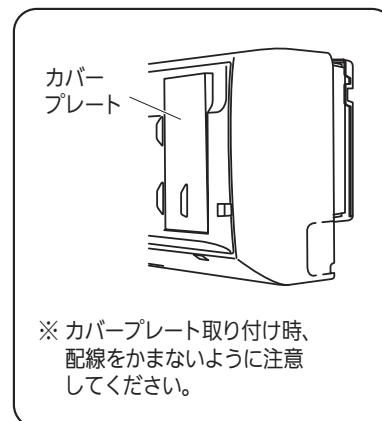
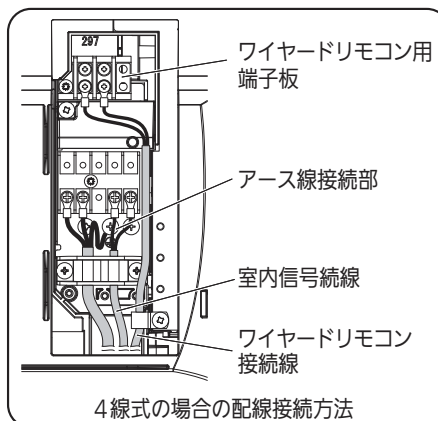
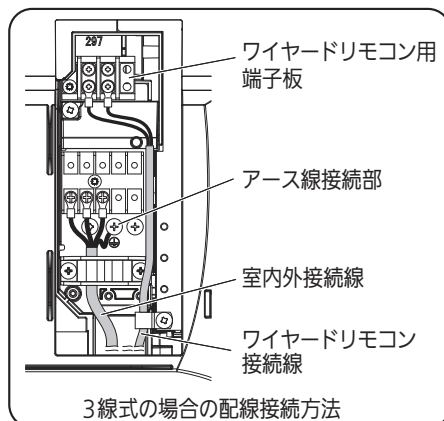
- ドレンホースに水がたまらないように必ず先下り勾配をつけてください。
- トラップのできる配管は絶対にしないでください。
- ドレンホースが水につからないようにしてください。
- ドレンホースを下水道に入れないようにしてください。下水道内で発生した硫化水素などの腐食性のガスが熱交換器を腐食させ、ガス漏れに至る場合があります。



## 5. 室内配線

(1) 吸込みグリルの両端を持ち開いてください。

(2) カバープレートを取りはずして、配線してください。



## 4. 据付手順 (つづき)

### 【グリルのはずしかた(基板の設定が必要な場合)】

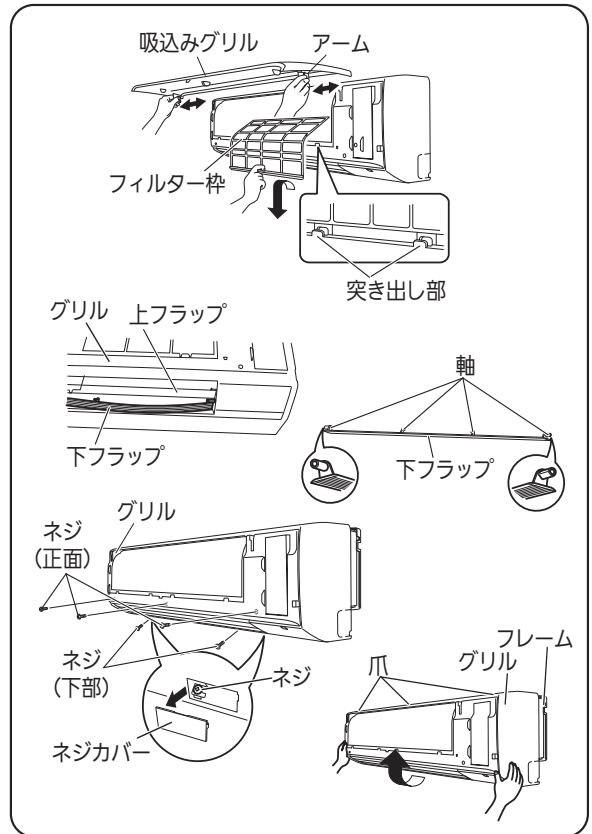
基本的には、本機種はグリルを取りはずさなくても配線ができます。  
基板の設定を変更する必要がある場合は、下記の手順に従ってください。

#### ● グリルの取りはずしかた・電装カバーの取りはずしかた

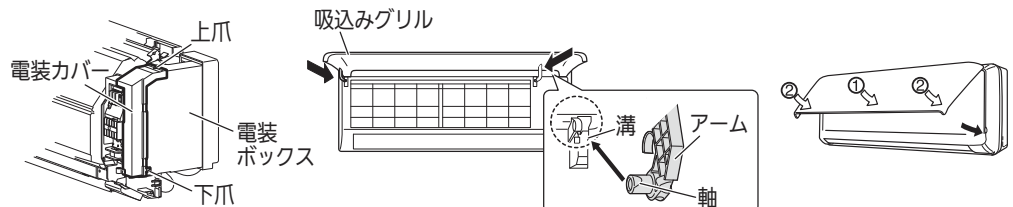
- (1) 吸込みグリルを全開にし、アームを右側(または左側)に寄せ手前に引いて片方ずつはずしてください。
- (2) フィルターをはずしてください。
- (3) 下フラップをたるませて軸を抜いてはずしてください。
- (4) グリル下部にあるネジカバーをはずしてください。(2か所)
- (5) ネジをはずしてください。(5か所)
- (6) グリルの両端を持ち、引き上げるようにしてはずしてください。
- (7) 電装カバーをはずしてください。

#### ● グリルの取り付け方・電装カバーの取り付け方

- (1) 電装カバーの上爪を電装ボックスに引っかけてから下爪を確実に取り付けてください。
- (2) フレーム上側の爪(3か所)をグリルに確実に固定させ、グリルを取り付けます。グリル全体を元の位置まで押し込んで、ネジとネジカバーを取り付けます。  
グリルへのネジの取り付けは、右から順に取り付けてください。
- (3) 下フラップをたるませながら、下フラップの軸をグリルの溝に合わせて挿入してください。
- (4) フィルターを取り付けてください。
- (5) 吸込みグリルを平行にしてグリルの溝に軸を押し込んで取り付けてください。
- (6) 吸込みグリルを閉じてから ↓ を押しして確実に固定してください。

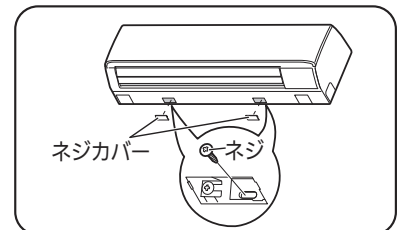
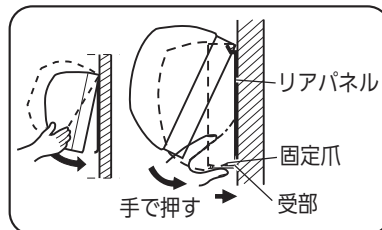
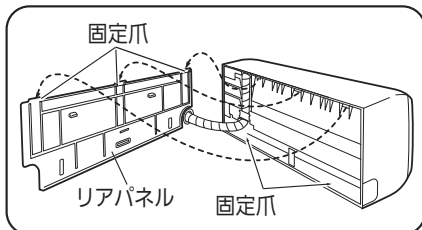


※ 電装カバー取り付け時、配線をかまないように注意してください。



## 6. 室内ユニット設置

- (1) 室内ユニットを設置するには、室内ユニットをリアパネル上側の固定爪に合わせて取り付けてください。
- (2) ユニット下部(フレーム) 2か所の固定爪が確実にハマるように、カチッと音がするまで吹出口下部をリアパネルに押し付けてください。
- (3) 室内ユニットの下部のネジカバーをはずし、取付ネジ(4×10) 2本で固定してください。



### 【室内ユニットを取りはずす場合】

- ① ユニット下部のネジカバーをはずし、取り付けネジをはずしてください。
- ② ユニット下部のフレーム(△マーク)部分2か所を押し上げて固定爪をはずしてから、室内ユニットを持ち上げて取りはずしてください。

